

## 親子関係と子どもの道徳性

——日本，アメリカ，トルコの中高生の比較——<sup>1) 2)</sup>

松 井 洋\*

Parent-child Relationship and Moral Sense of Children

— A Comparison of American, Turkish and Japanese Youths —

Hiroshi MATSUI

### 要 旨

親との心理的距離が「近い」か「遠い」かということが，子どもの，非行に対する態度や，価値観などの，考え方，生き方など，広い意味の道徳性に影響を与えると考えた。そこで，日本，アメリカ，トルコの中高生 2459 人を対象に調査を行った。

結果は，親子の心理的距離が「近い」ことが，望ましい考え方，生き方と関係があることがわかった。また，このことは，日本，アメリカ，トルコに共通する。つまり，文化を越えた関係であることがわかった。加えて，父親との心理的距離は子どもの，軽い非行に許容的，努力することや将来を考えることなどの価値観と関係が深く，母親との心理的距離は他者のことを考えることと関係が深かった。つまり，父親と母親とは子どもに対する影響が異なる。役割が異なるということが示唆された。

キーワード：親子の心理的距離，価値観，道徳意識，国際比較，中学高校生

### 目 的

われわれは，これまで，中学生・高校生の価値観，愛他性，道徳意識，友人関係、親子関係等について，国際比較調査，経年比較調査を行ってきた。その結果，日本の若者は，努力が嫌い，とくに性に関することなど非行に対して許容的，愛他性が低いなど，他の国の若者と比べ

---

\*教授 社会心理学

たとき、かなり顕著な問題のある傾向がある事がわかった。また、そのような傾向は経年比較の結果、この十数年ほどの間に悪化しつつあると言い得る結果を得ている（松井 1991, 1997, 1998, 1999, 松井他 1995, 1998, 中里・松井 1993, 1996, 1998, 1999, 2003 他）。

このような問題傾向の原因として、日本の親子関係に問題があるということが考えられる。それは、前述の研究の結果、日本の中学・高校生の親子関係は他の国に比べて、子どもが親のようになりたくない、親を尊敬しない等、心理的距離が遠いと言えるような問題があること。また、父親や母親との心理的距離が遠いことは、子どもの問題と関係があるからである（松井他 1999, 2000, 中里・松井 1997, 1999, 2003, 松井 2001, 2002）。

ここで言う、「心理的距離」であるが、これは、これまでの研究で用いてきた、親子間の関係を現す、一つの“ものさし”である。具体的には、親子関係に関する調査項目のうち、「父はなにかと私に相談する」、「父とはうまくいっている」、「父を尊敬している」、「父は私に期待している」、「父のようになりたい」の答の合計である。なお、母に関する質問では、父を母に置き換える。これらの項目は、親子関係が良いか悪いかを現す内容と考えている。そして実際、上記の研究において、子どもである中高生の価値観や道徳意識と関係があることが示唆されてきた。そこで、これまでも親子関係の良し悪しを測る“ものさし”として用いてきた。

ところで、親子の心理的距離で現されるような、親子関係のありかたが、子どもの価値観など、広い意味の道徳性に影響を与えるとして、以下の検討が必要と考える。

1. 親子の心理的距離は、日本だけでなく、外国の子どもの考え方や、生き方にも影響を持つのだろうか。このことは、親が子どもに影響を与える、与え方が、文化を超えた一貫性を持つかどうかという問題につながる。
2. 親子の心理的距離は、子どもの考え方や、生き方のどのような側面に影響するのだろうか。親との心理的距離が近いということは、子どもに一貫して良い影響を与えるのだろうか。
3. 父親との心理的距離と、母親との心理的距離とは、子どもの諸側面に対する影響の仕方が異なるのだろうか。もし、異なるのであれば、父親と、母親とは、子どもの養育において、違う役割を持つということになる。

本研究は、以上の点について検討することが目的である。

われわれの研究グループは、2001-2002にかけて、日本、アメリカ、トルコの三カ国で、中学生、高校生、そして、その父親、母親を対象に調査を行った。調査は、中高生の、生き方、考え方はじめ、親子関係など多岐にわたっている。本論文は、この調査を基に、上記問題に絞って検討するものである。他の、研究成果については、中里・松井（2003）が出版予定なので参照されたい。

## 方 法

## 1. 被験者

われわれの、最も新しい調査は、2001-2002にかけて実施した日本、アメリカ、トルコの三カ国のものである。対象者は表1のとおり、生徒と父母合わせて5812人である。ここでは、親の結果はとりあげないが、参考のため表に加えてある。中学・高校生を対象者だけだと2459名である。

日本の調査地点は東京、千葉、茨城、青森である。完全に公平なサンプリングではないが、都会と地方、公立と私立を選んで、なるべく偏りのない中学、高校生の、それぞれ2年生を対象としている。アメリカはニューヨーク州とモンタナ州、トルコはイスタンブールとダータネル海峽に面した小都市チャナッカレというように、外国でも大都会と地方都市を対象としている。

## 2. 調査内容

今回実施した調査では、93の質問からなる、質問紙調査をしている。この論文では、そのうち以下の項目について分析した。

1) **親子の心理的距離**；父子関係、母子関係それぞれについて、各5問の質問をした。具体的には、「父はなにかと私に相談する」、「父とはうまくいっている」、「父を尊敬している」、「父は私に期待している」、「父のようになりたい」の答の合計である。なお、母に関する質問では、父を母に置き換えた。選択肢は、「そうである」、「比較的そうである」、「あまりそうでない」、「そうでない」の4件法である。

この5項目を合計した値を父親、母親との心理的距離と言う。なお、父親との心理的距離についての項目は $\alpha = .840$ 、母親との心理的距離についての項目は $\alpha = .806$ である。おおむね等質な項目と言える

表1 調査の対象国と対象者数（人）

	日 本	アメリカ	トルコ	合 計
中学生	706	240	260	1206
高校生	700	303	250	1253
小 計	1406	543	510	2459
父 親	895	219	443	1557
母 親	1089	254	453	1796

この5項目を合計した値を基に、3カ国全体の中央値で二分し、心理的距離が「近い」と「遠い」の2群を作った。そして、下記の、子どもに関する項目との関係を検討した。

2) **重い非行に対する許容性**；重い非行に関する項目は、「ちょっとしたものを万引」、「人のものを盗む」、「ケンカをしてケガをさせる」、「覚せい剤などの薬物を使う」の5項目である。重い非行とは、このような犯罪行為になりかねない行為である。重い非行に関する項目間には  $\alpha = .774$  の関係がある。

この5項目を合計した値を基に、3カ国全体の中央値で二分し、重い非行に「許容的」と「非許容的」の2群を作った。そして、父親、母親それぞれ、心理的に「近い」と「遠い」の2群との関係を検討した。この方法は、以下の項目でもすべて共通である。

3) **軽い非行に対する許容性**；軽い非行に関する項目は、「タバコを吸う」、「酒を飲む」、「エッチな雑誌やアダルトビデオを見る」、「夜遅くまで外で遊ぶ」、「学校をさぼる」、「異性の友達と二人で泊まる」の6項目である。軽い非行とは、このように、一概に犯罪とは言えないが、虞犯行為や不良行為になるような、未成年者にはあまり望ましくない行為である。軽い非行に関する項目間には  $\alpha = .876$  の関係がある。この6項目を合計した値を基に、3カ国全体の中央値で二分し、軽い非行に「許容的」と「非許容的」の2群を作った。

4) **道徳意識**；道徳意識は「人にウソをつく」、「人を困らせる」、「困っている人を助けない」、「自分勝手にふるまう」、「公園の花をおる」、「親のいうことをきかない」、「友達との約束を破る」、「学校の先生のいうことを聞かない」、「バスの中で2人分の席を占領して座る」、「かんだガムを美地畑に捨てる」の10項目である。ここでいう、道徳意識は、このように、日常的な行為についての、良い一悪いの判断である。道徳意識に関する項目間には  $\alpha = .838$  の関係がある。この10項目を合計した値を基に、3カ国全体の中央値で二分し、道徳意識が「高い」と「低い」の2群を作った。

5) **愛他性**；愛他性は5種類の短い物語を作り、その場面で相手を「助けるか」、「助けないか」を訊いている。場面は、「緊急援助」、「援助」、「分与」、「寄付」、「奉仕」である。このうち、前3つは相手が知人の場合と、他人の場合がある。そこで合計8問になる。愛他性に関する項目間には  $\alpha = .717$  の関係がある。

6) **現在志向と将来志向**；価値観は多様であり、一括して比較することは困難である。そこで、4種類の価値観に分けて分析した。まず、現在志向か将来志向は、今が大切か、将来のことを考えるのかということである。項目は「今が楽しければよい」、「今よりも将来のために努力する」である。この二つは相反する価値観なので、両者の差を得点とした。

7) **努力志向**；努力志向は、人生には努力が大切と思うのか、努力より運で決まると考える

のかという価値観の違いである。外的統制—内的統制と言い換えることもできる。項目は「人生は運に左右されることが多い人」、「成功はその人の努力しだい」である。この二つは相反する価値観なので、両者の差を得点とした。

8) **金銭志向**；金銭志向は、人生に金が必要と思うのかどうかということの価値観である。項目は「生はお金だけでは幸福になれない」、「人生にはお金がなにより大切」である。この二つは相反する価値観なので、両者の差を得点とした。

9) **他者志向—自己志向**；他者志向—自己志向は、自分中心か、他の人のことも考えるのかということの価値観である。項目は「皆が幸福にならなければ個人の幸福はない」、「人生は自分のことでなく人のことを考えることが大切」、「何よりも自分の生活を充実させることが大切」である。最後の項目は前二つとは相反する価値観なので、両者の差を得点とした

## 結 果

### 1. 重い非行と親との心理的距離の関係

表2は心理的距離の近遠と重い非行の許容的、許容的の割合の関係および、 $\chi^2$ 値 (df = 1, 以下同じ)、p値である。 $\chi^2$ 値は上段が父親との、下段が母親との関係についての値である。

まず、重い非行に「許容的」、「非許容的」と、親との心理的距離の「近い」、「遠い」との関係について、3カ国全体で見ると、父親、母親ともに心理的距離が「近い」ほうが重い非行に対して「非許容的」な割合が多い。

国別にみると、トルコを除いて、日本、アメリカは父親とも、母親とも、心理的距離が「近い」ほうが「非許容的」な割合が多い。アメリカは全体に重い非行に「許容的」な割合が多いが、それは、とくに父母と心理的に遠い者に、高率である。

トルコは、そもそも、3カ国基準で分けたときの、親との心理的距離が遠いもの、重い非行に許容的なもの、どちらも少ないので2×2の分割表がかなり歪んでしまった、そのためトルコについては明確なことが言いにくい。しかし、3カ国全体として、父親、母親との心理的距離の近遠と、重い非行に対する許容性との間には、国を超えて、一貫した関係があると言える。それは、親子の心理的距離が近いと、重い非行に「非許容的」になり、遠いと「許容的」になるということである。

なお、3カ国標準を用いて、各国別に二分したことにより、トルコのように分割表に歪みが生じる問題であるが、これによって、結果が歪んでいるとは言えない。それは、分割表を作らずに、合計得点を用いて検定を行った場合でも、ここで行った方法と、ほぼ同じ結果が得られ

表2 父親、母親との心理的距離の近遠と重い非行の許容性

父親					母親					上父, 下母 $\chi^2, p$		
		許容	非許容	合計			許容	非許容	合計			
日本	近い	人	48	96	144	日本	近い	人	104	182	286	13.558 0.000
		%	33.3	66.7	100.0			%	36.4	63.6	100.0	
	遠い	人	563	572	1135		遠い	人	524	507	1031	18.768
		%	49.6	50.4	100.0			%	50.8	49.2	100.0	
	合計	人	611	668	1279		合計	人	628	689	1317	0.000
		%	47.8	52.2	100.0			%	47.7	52.3	100.0	
アメリカ	近い	人	219	164	383	アメリカ	近い	人	262	171	433	27.119 0.000
		%	57.2	42.8	100.0			%	60.5	39.5	100.0	
	遠い	人	78	12	90		遠い	人	62	15	77	11.299
		%	86.7	13.3	100.0			%	80.5	19.5	100.0	
	合計	人	297	176	473		合計	人	324	186	510	0.001
		%	62.8	37.2	100.0			%	63.5	36.5	100.0	
トルコ	近い	人	40	323	363	トルコ	近い	人	45	345	390	2.433 0.119
		%	11.0	89.0	100.0			%	11.5	88.5	100.0	
	遠い	人	14	67	81		遠い	人	4	48	52	0.689
		%	17.3	82.7	100.0			%	7.7	92.3	100.0	
	合計	人	54	390	444		合計	人	49	393	442	0.407
		%	12.2	87.8	100.0			%	11.1	88.9	100.0	
合計	近い	人	307	583	890	合計	近い	人	411	698	1109	52.722 0.000
		%	34.5	65.5	100.0			%	37.1	62.9	100.0	
	遠い	人	655	651	1306		遠い	人	590	570	1160	43.806
		%	50.2	49.8	100.0			%	50.9	49.1	100.0	
	合計	人	962	1234	2196		合計	人	1001	1268	2269	0.000
		%	43.8	56.2	100.0			%	44.1	55.9	100.0	

ているからである。

## 2. 軽い非行と親との心理的距離の関係

軽い非行と親との心理的距離との関係について、3カ国全体で見ると、表3のように、父親、母親ともに、心理的距離が「近い」ほうが、軽い非行に対して「非許容的」な割合が多い。この、心理的距離が「近い」、「遠い」ということと、軽い非行の許容性との関係は、重い非行の場合より大きい。つまり、父親、母親との心理的距離が「近い」と、性や飲酒やさぼりなどの非行的な行為に対して、軽くは考えない、どうでもよいとは思はないということである。非行に対して抑制的だということにつながるということである。

国別にみると、3カ国とも、父親とも、母親とも、心理的距離が「近い」ほうが「非許容的」な割合が多い。国の違いを超えて、親との心理的距離は、子どもの非行に対する態度と関係が

親子関係と子どもの道徳性

表3 父親，母親との心理的距離の近遠と軽い非行の許容性

父親					母親					上父, 下母		
		許容	非許容	合計		許容	非許容	合計		$\chi^2, p$		
日本	近い	人	64	81	145	日本	近い	人	159	127	286	25.591
		%	44.1	55.9	100.0			%	55.6	44.4	100.0	
	遠い	人	740	387	1127		遠い	人	668	357	1025	8.805
		%	65.7	34.3	100.0			%	65.2	34.8	100.0	
	合計	人	804	468	1272		合計	人	827	484	1311	0.003
		%	63.2	36.8	100.0			%	63.1	36.9	100.0	
アメリカ	近い	人	176	199	375	アメリカ	近い	人	215	212	427	8.425
		%	46.9	53.1	100.0			%	50.4	49.6	100.0	
	遠い	人	57	32	89		遠い	人	48	27	75	4.765
		%	64.0	36.0	100.0			%	64.0	36.0	100.0	
	合計	人	233	231	464		合計	人	263	239	502	0.029
		%	50.2	49.8	100.0			%	52.4	47.6	100.0	
トルコ	近い	人	35	326	361	トルコ	近い	人	41	346	387	8.425
		%	9.7	90.3	100.0			%	10.6	89.4	100.0	
	遠い	人	16	61	77		遠い	人	9	40	49	2.588
		%	20.8	79.2	100.0			%	18.4	81.6	100.0	
	合計	人	51	387	438		合計	人	50	386	436	0.108
		%	11.6	88.4	100.0			%	11.5	88.5	100.0	
合計	近い	人	275	606	881	合計	近い	人	415	685	1100	210.119
		%	31.2	68.8	100.0			%	37.7	62.3	100.0	
	遠い	人	813	480	1293		遠い	人	725	424	1149	144.725
		%	62.9	37.1	100.0			%	63.1	36.9	100.0	
	合計	人	1088	1086	2174		合計	人	1140	1109	2249	0.000
		%	50.0	50.0	100.0			%	50.7	49.3	100.0	

ある。

そして、母親との心理的距離より、父親との心理的距離のほうが軽い非行の許容性との関係が大きい。父親との心理的距離が近いと、軽い非行に「非許容的」になり、遠いと「許容的」になるということである。つまり、軽い非行についての子どもの態度に対しては、母親より、父親の役割が大きいということを示唆している。

### 3. 道徳意識と親との心理的距離の関係

軽い非行と親との心理的距離との関係について、3カ国全体で見ると、表4のように、父親、母親ともに心理的距離が「近い」ほうが、道徳意識が高い割合が多い。ただし、この心理的距離が「近い」、「遠い」ということと、道徳意識との関係は、重い非行や、軽い非行ほど大きくはない。

表4 父親，母親との心理的距離の近遠と道徳意識

父親					母親					上父, 下母		
		道徳高	道徳低	合計			道徳高	道徳低	合計	$\chi^2, p$		
日本	近い	人	105	36	141	日本	近い	人	201	79	280	13.776
		%	74.5	25.5	100.0			%	71.8	28.2	100.0	0.000
	遠い	人	658	472	1130		遠い	人	594	438	1032	18.671
		%	58.2	41.8	100.0			%	57.6	42.4	100.0	
	合計	人	763	508	1271		合計	人	795	517	1312	0.000
		%	60.0	40.0	100.0			%	60.6	39.4	100.0	
アメリカ	近い	人	54	316	370	アメリカ	近い	人	59	363	422	1.449
		%	14.6	85.4	100.0			%	14.0	86.0	100.0	0.229
	遠い	人	9	83	92		遠い	人	8	68	76	0.660
		%	9.8	90.2	100.0			%	10.5	89.5	100.0	
	合計	人	63	399	462		合計	人	67	431	498	0.417
		%	13.6	86.4	100.0			%	13.5	86.5	100.0	
トルコ	近い	人	265	84	349	トルコ	近い	人	282	99	381	4.314
		%	75.9	24.1	100.0			%	74.0	26.0	100.0	0.038
	遠い	人	51	28	79		遠い	人	37	11	48	0.210
		%	64.6	35.4	100.0			%	77.1	22.9	100.0	
	合計	人	316	112	428		合計	人	319	110	429	0.646
		%	73.8	26.2	100.0			%	74.4	25.6	100.0	
合計	近い	人	424	436	860	合計	近い	人	542	541	1083	7.198
		%	49.3	50.7	100.0			%	50.0	50.0	100.0	0.007
	遠い	人	718	583	1301		遠い	人	639	517	1156	6.138
		%	55.2	44.8	100.0			%	55.3	44.7	100.0	
	合計	人	1142	1019	2161		合計	人	1181	1058	2239	0.013
		%	52.8	47.2	100.0			%	52.7	47.3	100.0	

国別では，アメリカは有意な関係が認められない。トルコは父親との心理的距離が「近い」と道徳意識が高い割合が多い。日本は，父親とも，母親とも，心理的距離が「近い」ほうが道徳意識が高い割合が多い。

#### 4. 愛他性と親との心理的距離の関係

愛他性と親との心理的距離との関係について，3カ国全体で見ると，表5のように，父親，母親ともに心理的距離が「近い」ほうが，愛他性が高い割合が多い。つまり，親子関係が近いことは，他者に対する思いやり意識が高いことと関係がある。

国別では，日本は，父親とも，母親とも，心理的距離が「近い」ほうが道徳意識が高い割合が多い。

アメリカは母親との心理的距離が「近い」ほうが愛他性が高い割合が多いが，有意な関係で



親子関係と子どもの道徳性

表5 父親、母親との心理的距離の近遠と愛他性

父親					母親					上父, 下母
		愛他高	愛他低	合計			愛他高	愛他低	合計	$\chi^2, p$
日本	近い	人 73	68	141	日本	近い	人 139	129	268	8.245
		% 51.8	48.2	100.0			% 51.9	48.1	100.0	0.004
	遠い	人 414	644	1058		遠い	人 370	597	967	16.027
		% 39.1	60.9	100.0		% 38.3	61.7	100.0	0.000	
	合計	人 487	712	1199		合計	人 509	726	1235	
		% 40.6	59.4	100.0			% 41.2	58.8	100.0	
アメリカ	近い	人 207	138	345	アメリカ	近い	人 232	155	387	0.046
		% 60.0	40.0	100.0			% 59.9	40.1	100.0	0.831
	遠い	人 44	31	75		遠い	人 35	33	68	1.714
		% 58.7	41.3	100.0		% 51.5	48.5	100.0	0.190	
	合計	人 251	169	420		合計	人 267	188	455	
		% 59.8	40.2	100.0			% 58.7	41.3	100.0	
トルコ	近い	人 191	69	260	トルコ	近い	人 204	76	280	1.692
		% 73.5	26.5	100.0			% 72.9	27.1	100.0	0.193
	遠い	人 37	20	57		遠い	人 21	14	35	2.520
		% 64.9	35.1	100.0		% 60.0	40.0	100.0	0.112	
	合計	人 228	89	317		合計	人 225	90	315	
		% 71.9	28.1	100.0			% 71.4	28.6	100.0	
合計	近い	人 471	275	746	合計	近い	人 575	360	935	85.102
		% 63.1	36.9	100.0			% 61.5	38.5	100.0	0.000
	遠い	人 495	695	1190		遠い	人 426	644	1070	93.849
		% 41.6	58.4	100.0		% 39.8	60.2	100.0	0.000	
	合計	人 966	970	1936		合計	人 1001	1004	2005	
		% 49.9	50.1	100.0			% 49.9	50.1	100.0	

はない。トルコは父親、母親との心理的距離が「近い」ほうが愛他性が高い割合が多いが、これも有意な関係ではない。

### 5. 現在志向と将来志向と、親との心理的距離の関係

価値観は多様であり、一括して比較することは困難である。そこで、4種類の価値観に分けて分析した。

まず、現在志向か将来志向ということと、親との心理的距離との関係について検討する。3カ国全体で見ると、表6のように、現在志向か将来志向ということと、親との心理的距離とは関係がない。

アメリカは母親との心理的距離が「近い」ほうが、現在志向が高い割合が多いが、有意な関係ではない。トルコは現在志向か将来志向ということと、親との心理的距離とは関係がない。

表6 父親、母親との心理的距離の近遠と現在志向—将来志向

父親					母親					χ <sup>2</sup> , p
		現在志向	将来志向	合計			現在志向	将来志向	合計	
日本	近い	人 56	87	143	日本	近い	人 144	142	286	19.335 0.000
		% 39.2	60.8	100.0			% 50.3	49.7	100.0	
	遠い	人 671	476	1147			遠い	人 601	437	1038
	% 58.5	41.5	100.0		% 57.9	42.1	100.0			
	合計	人 727	563	1290		合計	人 745	579	1324	
		% 56.4	43.6	100.0			% 56.3	43.7	100.0	
アメリカ	近い	人 275	104	379	アメリカ	近い	人 307	122	429	1.237 0.266
		% 72.6	27.4	100.0			% 71.6	28.4	100.0	
	遠い	人 60	30	90			遠い	人 46	30	76
	% 66.7	33.3	100.0		% 60.5	39.5	100.0			
	合計	人 335	134	469		合計	人 353	152	505	
		% 71.4	28.6	100.0			% 69.9	30.1	100.0	
トルコ	近い	人 178	192	370	トルコ	近い	人 190	204	394	0.030 0.861
		% 48.1	51.9	100.0			% 48.2	51.8	100.0	
	遠い	人 40	45	85			遠い	人 27	28	55
	% 47.1	52.9	100.0		% 49.1	50.9	100.0			
	合計	人 218	237	455		合計	人 217	232	449	
		% 47.9	52.1	100.0			% 48.3	51.7	100.0	
合計	近い	人 509	383	892	合計	近い	人 641	468	1109	0.346 0.557
		% 57.1	42.9	100.0			% 57.8	42.2	100.0	
	遠い	人 771	551	1322			遠い	人 674	495	1169
	% 58.3	41.7	100.0		% 57.7	42.3	100.0			
	合計	人 1280	934	2214		合計	人 1315	963	2278	
		% 57.8	42.2	100.0			% 57.7	42.3	100.0	

日本は、父親とも、母親とも、心理的距離が「近い」ほうが、将来志向の割合が多い。そして、このことは父親において大変に顕著である。父親との心理的距離は母親との心理的距離に比べて、子どもの将来志向に大きく関係する。

#### 6. 努力志向と親との心理的距離の関係

努力志向かどうかということと、親との心理的距離との関係について検討する。3カ国全体で見ると、表7のように、父親、母親ともに心理的距離が「近い」ほうが、「努力する」という割合が多い。そして、この傾向は、母親との距離より、父親との距離に関して強い。

国別では、日本と、アメリカは、父親、母親ともに心理的距離が「近い」ほうが、「努力する」という割合が多い。そして、両国ともこの傾向は、母親との距離より、父親との距離に関して強い。

親子関係と子どもの道徳性

表7 父親，母親との心理的距離の近遠と努力

父親					母親					上父，下母		
		努力しない	努力する	合計			努力しない	努力する	合計	$\chi^2, p$		
日本	近い	人	42	103	145	日本	近い	人	105	179	284	12.764
		%	29.0	71.0	100.0			%	37.0	63.0	100.0	0.000
	遠い	人	514	640	1154		遠い	人	458	591	1049	4.098
		%	44.5	55.5	100.0			%	43.7	56.3	100.0	0.043
	合計	人	556	743	1299		合計	人	563	770	1333	0.043
		%	42.8	57.2	100.0			%	42.2	57.8	100.0	
アメリカ	近い	人	96	284	380	アメリカ	近い	人	114	317	431	12.492
		%	25.3	74.7	100.0			%	26.5	73.5	100.0	0.000
	遠い	人	40	51	91		遠い	人	29	47	76	4.373
		%	44.0	56.0	100.0			%	38.2	61.8	100.0	0.037
	合計	人	136	335	471		合計	人	143	364	507	0.037
		%	28.9	71.1	100.0			%	28.2	71.8	100.0	
トルコ	近い	人	120	251	371	トルコ	近い	人	141	259	400	2.404
		%	32.3	67.7	100.0			%	35.3	64.8	100.0	0.121
	遠い	人	35	50	85		遠い	人	18	35	53	0.034
		%	41.2	58.8	100.0			%	34.0	66.0	100.0	0.854
	合計	人	155	301	456		合計	人	159	294	453	0.854
		%	34.0	66.0	100.0			%	35.1	64.9	100.0	
合計	近い	人	258	638	896	合計	近い	人	360	755	1115	54.500
		%	28.8	71.2	100.0			%	32.3	67.7	100.0	0.000
	遠い	人	589	741	1330		遠い	人	505	673	1178	27.305
		%	44.3	55.7	100.0			%	42.9	57.1	100.0	0.000
	合計	人	847	1379	2226		合計	人	865	1428	2293	0.000
		%	38.1	61.9	100.0			%	37.7	62.3	100.0	

トルコも父親との距離に同様の傾向が見られるが，有意な関係ではない。

### 7. 金銭志向と親との心理的距離の関係

金銭志向かどうかということと，親との心理的距離との関係について検討する。3カ国全体で見ると，表8のように，父親，母親ともに心理的距離が「近い」ほうが，「金銭志向」が強い割合が少ない。

国別では，日本と，トルコは，父親，母親ともに心理的距離が「近い」ほうが，「金銭志向」が強い割合が少ない。そして，トルコで，この傾向は，父親との距離より，母親との距離に関して強い傾向がある。

アメリカも母親との距離に同様の傾向が見られるが，有意な関係ではない。

表8 父親, 母親との心理的距離の近遠と金銭志向

父親					母親					上父, 下母 $\chi^2, p$		
		金志向小	金志向大	合計			金志向小	金志向大	合計			
日本	近い	人	69	75	144	日本	近い	人	128	157	285	6.622 0.010 7.466 0.006
		%	47.9	52.1	100.0			%	44.9	55.1	100.0	
	遠い	人	424	726	1150		遠い	人	376	667	1043	
		%	36.9	63.1	100.0			%	36.0	64.0	100.0	
	合計	人	493	801	1294		合計	人	504	824	1328	
		%	38.1	61.9	100.0			%	38.0	62.0	100.0	
アメリカ	近い	人	102	284	386	アメリカ	近い	人	119	318	437	0.676 0.411 2.617 0.106
		%	26.4	73.6	100.0			%	27.2	72.8	100.0	
	遠い	人	20	70	90		遠い	人	14	62	76	
		%	22.2	77.8	100.0			%	18.4	81.6	100.0	
	合計	人	122	354	476		合計	人	133	380	513	
		%	25.6	74.4	100.0			%	25.9	74.1	100.0	
トルコ	近い	人	246	126	372	トルコ	近い	人	264	135	399	3.233 0.072 7.477 0.006
		%	66.1	33.9	100.0			%	66.2	33.8	100.0	
	遠い	人	48	38	86		遠い	人	26	29	55	
		%	55.8	44.2	100.0			%	47.3	52.7	100.0	
	合計	人	294	164	458		合計	人	290	164	454	
		%	64.2	35.8	100.0			%	63.9	36.1	100.0	
合計	近い	人	417	485	902	合計	近い	人	511	610	1121	18.513 0.000 24.537 0.000
		%	46.2	53.8	100.0			%	45.6	54.4	100.0	
	遠い	人	492	834	1326		遠い	人	416	758	1174	
		%	37.1	62.9	100.0			%	35.4	64.6	100.0	
	合計	人	909	1319	2228		合計	人	927	1368	2295	
		%	40.8	59.2	100.0			%	40.4	59.6	100.0	

### 8. 他者志向か自己志向かと親との心理的距離の関係

他者志向か自己志向かということと、親との心理的距離との関係について検討する。3カ国全体で見ると、表9のように、父親との心理的距離と他者志向か自己志向かということの間には関係がない。しかし、母親については心理的距離が「近い」ほうが、「他者志向」が多い。

国別では、トルコは父親、母親との心理的距離が「近い」ほうが、「他者志向」が多い傾向があるが有意ではない。

アメリカは父親、母親との心理的距離が「近い」ほうが、「他者志向」が多く、この傾向は、父親との距離より、母親との距離に関して強い傾向がある。

日本は、父親との心理的距離と他者志向か自己志向かということの間には関係がない。しかし、母親については心理的距離が「近い」ほうが、「他者志向」が多い。

親子関係と子どもの道徳性

表9 父親，母親との心理的距離の近遠と自己志向

父親					母親					上父, 下母 $\chi^2, p$		
		他者志向	自己志向	合計			他者志向	自己志向	合計			
日本	近い	人	70	75	145	日本	近い	人	151	132	283	0.087
		%	48.3	51.7	100.0			%	53.4	46.6	100.0	0.769
	遠い	人	537	606	1143		遠い	人	475	565	1040	5.269
		%	47.0	53.0	100.0			%	45.7	54.3	100.0	
	合計	人	607	681	1288		合計	人	626	697	1323	0.022
		%	47.1	52.9	100.0			%	47.3	52.7	100.0	
アメリカ	近い	人	226	149	375	アメリカ	近い	人	261	169	430	3.146
		%	60.3	39.7	100.0			%	60.7	39.3	100.0	0.076
	遠い	人	45	45	90		遠い	人	27	45	72	13.570
		%	50.0	50.0	100.0			%	37.5	62.5	100.0	
	合計	人	271	194	465		合計	人	288	214	502	0.000
		%	58.3	41.7	100.0			%	57.4	42.6	100.0	
トルコ	近い	人	115	251	366	トルコ	近い	人	118	274	392	2.351
		%	31.4	68.6	100.0			%	30.1	69.9	100.0	0.125
	遠い	人	19	64	83		遠い	人	14	40	54	0.397
		%	22.9	77.1	100.0			%	25.9	74.1	100.0	
	合計	人	134	315	449		合計	人	132	314	446	0.529
		%	29.8	70.2	100.0			%	29.6	70.4	100.0	
合計	近い	人	411	475	886	合計	近い	人	530	575	1105	0.110
		%	46.4	53.6	100.0			%	48.0	52.0	100.0	0.740
	遠い	人	601	715	1316		遠い	人	516	650	1166	3.143
		%	45.7	54.3	100.0			%	44.3	55.7	100.0	
	合計	人	1012	1190	2202		合計	人	1046	1225	2271	0.076
		%	46.0	54.0	100.0			%	46.1	53.9	100.0	

考 察

1. 親との心理的距離の遠近と子どもの特徴

親との心理的距離が近いことは、今回分析した子どもの広い意味の道徳性の要因すべてについて好ましい傾向と関係があった。それは、重い非行に許容的でない、軽い非行に許容的でない、道徳意識が高い、愛他性が高い、将来志向である、努力志向である、金銭志向ではない、他者志向である。この傾向は、要因によって関係に強弱はあるが、一貫するものであった。すなわち、親子関係が近いことは、子どもの望ましい考え方や生き方につながる。

2. 国を超えた一貫性

もうひとつの一貫性は、国の間に見られた。上記の傾向は3カ国に共通するものであった。

つまり、3カ国とも、親子関係が近いことは、子どもの望ましい考え方や生き方につながるという傾向が見られた。もちろん、すべての要因、すべての国で、常にこのような関係があったわけではない。しかし、少なくとも、この関係と矛盾する傾向はひとつもなかった。それゆえ、親子との心理的距離が近いということは、国の違いを超えて、子どもの考え方や、生き方に望ましい影響を与えるのではないかと考えられる。

### 3. 父親と母親の役割の違い

親との心理的と子どもの特徴の間には上記のような、国を超えた、一貫した傾向があった。ところが、違いが、父親と母親との間にあった。その違いとは、子どもとの心理的距離が近いことと関係のある、子どもの、生き方、考え方の特徴が、父親との関係と、母親との関係との間で違うことである。

母親と比べて、父親との「近さ」と関係の強い子どもの特徴は、軽い非行に許容的でない、努力志向である。そして、日本において将来志向である。母親との「近さ」と関係の強い子どもの特徴は、他者志向である、金銭志向ではない、である。

以上のことから、考えられることは、子供は、父親との関係から「がまん」などの生きる姿勢を学び、母親から「他者を考える」というような社会性を学ぶということである。そして、この父母の違いは3カ国にかなり共通している。そこで父母の子どもに対する役割には、国を超えて一貫した違いがあるといえる。

この最後の結論は、子どもの問題と、親子のあり方を考えるとき、大変興味深い。たとえば、軽い非行に許容的であること、努力を嫌うこと、他者に関心がうすいことは、日本の若者の大きな特徴であり、問題だからである。それゆえ、この問題の原因と対策を考えるとき、父親、母親それぞれの役割があるという考え方は重要といえるのである。しかし、本研究の結果は、この可能性を示唆しているが、検証されたとはいえない。今後の検討が必要と考える。

## 文 献

- 松井 洋 1991, 「青年期における愛他行動の発達とその規定因」, 『川村学園女子大学研究紀要』第2巻 181-193.
- 松井 洋・中里至正・加藤義明・瀬尾直久・石井隆之 1995 「愛他性の構造に関する国際比較研究」『日本心理学会第59回大会発表論文集』, 173.
- 松井 洋 1997, 「愛他性に関する国際比較研究—米国, 中国, 韓国, トルコ, 日本の中学生・高校生を対象として—」『川村学園女子大学研究紀要』第8巻 第1号, 147-165.
- 松井 洋 1998 「中学・高校生の思いやり意識—日本・中国・韓国・アメリカ・トルコの学生・高校生を対象として—」, 『川村学園女子大学研究紀要』第8巻 第1号, 147-165.

## 親子関係と子どもの道徳性

- 松井 洋・中里至正・石井隆之, 1998, 「愛他性の構造に関する国際比較研究」, 『社会心理学研究』, 第13巻, 2号, 133-142.
- 松井 洋 1998, 「中学・高校生の思いやり意識—日本・中国・韓国・アメリカ・トルコの愛他性の国際比較研究—」, *Health Sciences*, vol. 14, no. 2, 45-55, 日本健康科学学会.
- 松井 洋 1998, 「愛他性に関する国際比較研究—日本, 中国, 韓国, アメリカ, トルコ, キプロス, ポーランドの中学生・高校生を対象として—」, 『川村学園女子大学研究紀要』第9巻 第1号, 175-186.
- 松井 洋 1999, 「日本の中学生・高校生の価値観に関する研究—日本, アメリカ, 中国, 韓国, トルコ, キプロス, ポーランドとの国際比較研究—」, 『川村学園女子大学研究紀要』第10巻.
- 松井 洋, 2000, 「日本の若者のどこがへんのか—中学生・高校生の国際比較から—」, 『川村学園女子大学研究紀要』, 第11巻, 第1号, 101-114.
- 松井 洋・中里至正・石井隆之, 2000, 「中学生の親子の心理的距離」, 『日本心理学会第64会大会論文集』, 190.
- 松井 洋, 2001, 「日本の中学生の親子関係」, 『川村学園女子大学研究紀要』, 第12巻, 第1号, 171-180.
- 松井 洋, 2002, 「日本の中学生の親子関係と非行的態度」, 『川村学園女子大学研究紀要』, 第13巻, 第1号, 105-120.
- Nakasato, Y. & Matsui, H., 1993 Altruistic Attitudes of Japanese Youths. *International Journal of Psychology*, vol. 27, pp 562.
- Nakasato, Y. & Matsui, H., 1996 A Structure of Altruistic Attitudes — A Comparison of American, Chinese, Korean, Turkish and Japanese Youths —. *International Journal of Psychology*, vol. 28, pp 48.
- 中里至正・加藤義明・杉山憲司・松井 洋・瀬尾直久 1992, 「非行抑止要因の文化差に関する研究—日本・韓国・米国・中国の高校生を対象として」, (財)日工組調査研究財団委託研究報告書.
- 中里至正・松井 洋 (編著), 1997 『異質な日本の若者たち』, プレーン出版.
- 中里至正・松井 洋 1999 『日本の若者の弱点』, 毎日新聞社.
- 中里至正・松井 洋 2003 『国際比較 日本の親の弱点』, 毎日新聞社 (印刷中).

- 1) 本論文は, 本学心理学科中村真, 東洋大学中里至正との共同研究の成果をまとめたものである。
- 2) 本研究は, 平成13・14年度 科学研究費補助金(基盤C)「社会的迷惑行為の抑制要因と恥意識の関係」, 研究代表者 松井 洋, 課題番号13610161の補助を受けた。